

社会の変化を敏感につかみ対応を



松本 敦氏

Profile
NHK鹿児島放送局長
1981年に中央大学商学部を卒業後、記者としてNHKに入り、仙台放送局、山形放送局、松山放送局、金沢放送局などで勤務。以後報道局で、おはよう日本編集責任者、BSニュース編集長、災害・気象センター長などを歴任。2011年6月より現職。
福岡市出身。54歳。

私が去年、鹿児島県に来て感じたのは、豊かな自然と文化にあふれたまちであるとともに、黒牛、黒豚、さつまあげをはじめ多彩な特產品に恵まれたところだということです。先日、種子島の黒糖づくりを全国向けの食の番組で紹介させていただきました。受け継いできた伝統的な技を使って地元の人たちがつくる。まさに地域に根差した特產品の素晴らしさを実感しました。

九州新幹線の全線開通と地元の皆さんの取り組みによつて、今まで多くの観光客が訪れるようになりました。観光客をつなぎとめ、さらに増やすため、各自治体や団体、企業等の様々な観光戦略が展開されることになると思います。まさに鹿児島県の観光にとって重要な転換期を迎えてい

るのでしょう。

特產品についても、今が鹿児島県特產品のファンを作る大きなチャンスです。鹿児島の特產品には何があり、どこで買うことができるのか、全国に向けた十分な情報提供が必要です。NHK放送文化研究所が行つた2010年の国民生活時間調査によると、観光など遠出する人は、平日は高年齢層で多く、土曜・日曜は50代以下の男性と40代以下の女性の割合が大幅に増える傾向があるそうです。またメディアの使い方を見ますとインターネットの利用者が広がり、今ではテレビ、新聞に次ぐメディアとなっています。年代別では、高齢者はテレビ、新聞、ラジオの利用が多く、中年層は使い分け、10代・20代は比較的多め

デイア利用傾向にあるという結果が出ています。情報提供にあたつては、毎年のように変わる社会の変化を敏感につかむことが重要です。特產品それぞれ誰をターゲットにするのか。その場合どのメディアを使って、どういう宣伝をすれば最も効果的か、しっかりと絞り込んで行う必要があるでしよう。

また、これからは新幹線を使って日帰りをするビジネスマンや旅行客が増えてくることが予想されます。鹿児島県での滞在時間はさらに短くなつてくるのです。ここに行けば鹿児島県の特產品のことがすべてわかるし、買うこともできるという特產品の新たな拠点をつくり、観光客に訪れてもらうことも効率良く特產品を買ってもらう一つの手段ではないでしょうか。鹿児島県の焼酎は

有名ですが、観光客にはどの焼酎にどういう特徴があるのかわかりません。アドバイスしてくれる人がいるとより親切でしよう。これからアジアの観光客を増やしていくこうという計画もあるようですから、外国人観光客への対策をすることでも拠点をさらに有効に活用できると思います。さらには、こうした拠点と各地の特產品の産地を結んだ新たな観光ルートがあつてもよいのではないかでしょうか。今は食の安全が言われ、生産者との触れ合いも重要視される時代です。観光地めぐりにプラスすれば、より魅力的なコースとなるのではないでしようか。

NHKでは、今後も鹿児島県の魅力を全国に伝え、活性化のお役